

2025年度 第8回北海道レフェリーアカデミー 事業報告

報告者:鈴木辰汰(オホーツク地区)

【日時】2025 年10月25日(土) 10月26日(日)

【場所】10月25日 札幌サッカーアミューズメントパーク多目的室

札幌大谷高校丘珠グラウンド

10月26日 芦別市陸上競技場

【テーマ】「ポジショニングと動き」の整理と成長

10月25日

9:30 集合

9:40 講義①「事象分析」「プレゼンテーション」担当:柴田靖士氏

本講義では、現在1級インストラクター養成コースを受講されている柴田氏から、2つの試合映像を用いた映像分析とFK マネジメントについてお話を頂いた。映像分析では、カウンターからの DOGUSO 案件の時に意識すること、オフサイドで DF が影響を受けるとはということ主としてディスカッションを行いながら進めた。特にオフサイドの部分では「どのようなボールであれば」、「どのような配置なら」と様々な視点からディスカッションを行い整理していくことができた。FK マネジメントに部分では、私たち審判員が行わなければならない FK の手順を整理したのちに、映像を見て映像の問題点と改善策について話した。その後、講義を受けて自分なら FK の際に何を意識して手順を踏んでいくのかをまとめた。私たちは時間を短くすることや目の前の一つ一つの工程を踏むことなどに気を取られていることを改めて実感し、全ての可能性を予測し確実にプレーを再開しなければならないということを確認した。

11:00 昼食

11:40 講義②「ポジショニングと動き」担当:西村雄一氏

本講義では、まずポジショニングと動きは何を基に決めるのかというところを整理した。実際私たちは事象を見るために決めていると考えていたがそうではなく、その前にある「状況」を掴むために行うということを学んだ。その後、この後に行われるインカムを用いた試合実践にも生きるピッチのエリアの概念的なところなど今まで感覚的になんとなく理解していたことの数々がしっかりと言語化されたものでお話を頂き、より深く自分たちで振り返りを行う時の材料としてとても有効的な知識を得ることができた。一つ一つのことを丁寧に言語化されており、全てを完璧に理解することは難しいことかもしれないが、出来ることになれば必ず審判員として成長することができるというように感じた。

13:15 移動

14:30 試合実践①「インカムを用いてポジショニングと動きをブラッシュアップする」

TM 札幌大谷高校vs北照高校 30分×3本

今回、オブザーバーの西村氏が自分たちのレフェリングを見てリアルタイムでインカムを通して自分たちの

ポジショニングと動きについてアドバイスをもらいながら務めた。20分という短い時間の中で西村氏のアドバイスと自分の動きに食い違いが多く、ギャップを感じながら行っていたが、段々とそのギャップが埋まっていくことが自分でもわかっていくようになった。特に「事象に直線的によらない」「タテの先取りはしてもヨコの先取りはしない」等のように今まで自分がよかれてと思って行っていたことが実は自分の首を絞めていたということにも気づかされた。短い時間で時間以上にとても濃く充実したものとなった。また、インカムをつけるという経験がなかなかできないことを行えたというところは大きな財産になるように感じた。

16:30 試合振り返り

17:10 諸連絡・解散

10月26日

9:15 集合

10:30 試合実践②

北海道学生サッカーリーグ1部 最終節

北海道大学vs東海大学

担当: R:高橋 A1:鈴木 A2:須磨氏

13:00 試合実践③

北海道学生サッカーリーグ1部 最終節

札幌大学vs北海道教育大学岩見沢校

担当: R:高橋 A1:鈴木 A2:須磨氏

15:00 試合振り返り

15:40 諸連絡・解散

〈全体を通して〉

今回第8回北海道レフェリーアカデミーに参加させていただきました。

今回は元国際審判員である西村雄一氏をオブザーバーに迎え、主にポジショニングと動きについて学ぶことができました。今シーズンの自分の課題の一つであったポジショニングと動きですが、講義や実践を通して自分の考えていた本質の部分や目的に対する手段の部分などが間違えた解釈であったり理解をしていることを痛

感じました。ですが、その部分が少しずつ改善していったという手ごたえも同時に感じる事ができました。私たちはこれからシーズンアウトとなりこれから試合を行う機会が格段に減ってしまいますが、今回の経験をしっかりと自分の中でブラッシュアップし来年のシーズンインをいい状態で迎えたいと思っています。

また、今回自分は初めて北海道のトップカテゴリーの試合を担当させていただきました。今までの自分であれば勤まっていなようなレベルのゲームを副審ではあるものの行うことができたというところで今年1年間の RAC の活動が活きていると感じました。試合を務めたことで「この試合を吹きたい」という目標もでき、とても刺激のある活動でした。

シーズンは終わりに向かっていますが、ここから伸びるためにはどこまでオフ期間に自分に向き合えるかだと思うのでしっかりと1日1日を積み重ねていきたいと思います。

最後になりましたが、今回派遣して頂いたオホーツク地区サッカー協会の皆様、担当して頂いたインストラクターの皆様、試合の機会を頂きました試合運営関係者の皆様、チーム関係者の皆様誠にありがとうございました。